

授業科目名・形態	地域福祉論Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	山田 克宏・石岡 和志		実務経験の有無	有	開講期	3年前期

【授業の主題】

2000年社会福祉法改正から地域福祉のメインストリーム化が進んでいる。本講は、地域福祉課題の解決のために必要な地域福祉の理論・政策・実践・技術を、体系的に習得することを目的とする。これらを体系的に学ぶことにより、制度横断的な支援方法を身に付けることができる。具体的には、地域福祉におけるネットワークング、社会資源の活用・調整・開発、地域包括ケアシステム、サービスの評価方法等について、地域福祉計画の推進方法やコミュニティ資源を生かした事例、視覚教材を用いながら学習する。

【到達目標】

- 1) 地域福祉の推進法を理解出来る。
- 2) コミュニティソーシャルワーカーの役割について、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係から説明できる。
- 3) 地域福祉における社会資源の活用と開発の技術について、状況設定場面から適応できる。
- 4) 福祉課題解決の手法を計画できる初歩的な力をもつことができる。
- 5) 地域トータルケアシステムについて、社会的背景・理論的背景から確認できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 社会福祉法の改正と地域福祉
- 第2回 コミュニティケアソーシャルワークの考え方と展開
- 第3回 多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク
- 第4回 地域を基盤としたソーシャルワーク(コミュニティソーシャルワーク)
- 第5回 ソーシャルサポートネットワークの考え方
- 第6回 地域における社会資源の活用と開発
- 第7回 地域における社会資源の活用(税制優遇と助成金)
- 第8回 地域におけるアウトリーチの意義
- 第9回 地域における福祉ニーズの把握方法(質的、量的な福祉ニーズ)
- 第10回 地域トータルケアの必要性和考え方(地域包括ケア)
- 第11回 地域トータルケアの展開方法
- 第12回 福祉サービスの評価の背景と評価の考え方(社会福祉事業を評価)
- 第13回 福祉サービスの評価方法と実際
- 第14回 災害支援と地域福祉
- 第15回 海外の地域福祉(イギリスとアメリカにおけるコミュニティ政策)

【授業実施方法】

講義形式(視覚教材も適宜活用する)。

【授業準備】

2年時に学んだ地域福祉論Ⅰを復習するとともに、講義中に指摘する問題について調べ学習を行っていくこと。

【主な関連する科目】

公的扶助論、現代社会と福祉、社会福祉概論Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編：地域福祉の理論と方法(第3版)、中央法規、2015。

【参考文献】

右田紀久恵・高澤武司・古川孝順：社会福祉の歴史、有斐閣、1977、渡邊洋一：コミュニティケア研究、相川書房、2000。上野谷加代子・原田正樹：地域福祉をデザインする、有斐閣、2016年、白澤政和：地域のネットワークづくりの方法、中央法規、2013年、都築光一：新しい地域福祉の推進の理論と実際、中央法規、2007年。

【成績評価方法】

授業態度10%、レポート30%(7回目に課題提示)、期末試験(筆記中心)60%により評価する。60%以上の得点を合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は、居宅介護支援事業所で、ケアマネジメント業務に携わってきた。また、社会活動としては、地域福祉推進会議委員として地域福祉計画の進捗状況の把握、課題の抽出を行ってきた。そのような中で得た実践知を講義に活かしたい。

【学生へのメッセージ】

地域福祉活動は、生活の場での実践です。自分にとって身近な地域における生活問題を結び付けながら学習する。